



よこはま 支部だより

issue 2011.4.30

VOL. 54

社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部

THE YOKOHAMA BRANCH, KANAGAWA PREFECTURE SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

CONTENTS

●H23 年度 横浜支部総会 告知	p1
●奈良ツアーレポート ○技術情報委員会	p2
●奈良ツアー特集 ～私の一枚～	p3
●絵画同好会だより ～H22.12.26 裸婦デッサン会開催～	p8
●テニス同好会だより ～練習・懇親会ほか～	p9
●近代建築世界一周 No4 ～ブラジルの旅～ ○桜本将樹	p10
●部会紹介 ○技術支援委員会 スクランブル調査隊	p12
●お知らせ・編集後記	p14

編集 広報委員会
発行 社団法人 神奈川県建築士会
横浜支部事務局 担当：大平

231-0011
横浜市中区太田町 2-22 神奈川建設会館 5F
TEL：045-201-1284 FAX：045-201-0784

このたびの東北地方太平洋沖地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地が一日も早く復興することをお祈り申し上げます。また神奈川県建築士会といたしましては、復興等に出来る限りの支援を行って参る所存でございます。会員の皆様に於かれましても何卒ご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社団法人 神奈川県建築士会 会長 藤田 武
横浜支部長 山成 芳直

被災された方々に対して、義援金を受付けております。

あたたかいご支援をお願いいたします。

詳細については神奈川県建築士会のホームページをご覧ください。

平成 23 年度第 18 回横浜支部通常総会のお知らせ

○日 時：平成 23 年 6 月 18 日（土）14：00 開催

○会 場：横浜メディアビジネスセンター 1F アプローズ
（横浜市中区太田町 2-23）

○参加費：無料（懇親会を除く）

予 定

○支部総会 14：00～15：00（7 階大会議室にて）

- 総会議事
1. 平成 22 年度活動報告
 2. 平成 22 年度収支決算報告
 3. 平成 23 年度活動計画案
 4. 平成 23 年度収支予算案

○講演会 中村 勉氏 建築家・ものづくり大学名誉教授
15：00～16：30

～テーマ：絶つ原発からゼロカーボン建築へ～

○懇親会 16：45～18：30

会費：2000 円（当日会場にて徴収）

奈良ツアー レポート

2011年02月18日(金)～20日(日)

おととの京都に続き、2泊3日で奈良に行ってきました。32,000円という金額決定に時間がかかり、なかなか告知ができず、川崎で行われた活動交流会と日にちが重なってしまった結果、参加者は19名と少なめ。初日は、伝統的保存地区、今井町の見学です。



最初に、奈良県の建築士会のメンバーからレクチャーを受け、いざ、町並み散策へ。

4～5名の地元建築士の詳細な説明を聞きながら、3時間以上は歩いたでしょうか。周辺を壕に囲まれ、独立した商業自治区だったために、保存状態が良好だったことが出発点だったとか。当時の町の原型を維持しつつも、あちこちに現代的な部分も垣間見えた、路地空間でした。

「保存」という抑制力を、行政の支援も受けて実行しているマンパワーの産物でありながら、無理のない現代的な暮らしも営まれている様子に、親しみやすさを感じました。

今井町を出てからは、日本最古の十字路（東西方向が伊勢一難波、南北方向が明日香一京都）へ。都というのは、奈良の南部から始まり、時代と共に北上していったそうです。

初日の夜は、案内をしてくださった、奈良の建築士さんたちと懇親会。夜になると、先方の人数も増えていて、広いはずの部屋が、人と食べ物でごった返したような状態に。二日目は、春日大社－東大寺－法隆寺－薬師寺－唐招提寺などのポピュラーコース。三日目は、各自が午後三時まで自由行動。詳しい「その他」については、「私の一枚」特集をご覧ください。



(技術・情報委員 田川 尚吾)

奈良ツアー特集「私の一枚」

～参加者の目線から～

Photo 01

奈良、飛鳥駅から待ち合わせ場所である京都への帰路、突然車窓から覗えた棟・・・・・・・・
「それはそれは、突然にも黒い壮絶な景観を呈していました。」・・・・・・・・国宝。東寺、五重の塔

(田中克樹)



Photo 02

今井町を西から護った今西家！
歴史と自治の精神が宿った屋敷に感動でした。

(小出良知)



Photo 03

帰路途中の宇治平等院。
別棟だったことに驚き、三種類の屋根形状の使い分けかたには納得するばかり。
重厚な中央部に対し、翼廊は華奢でアンバランス。低くつぶれたような2階には設計者の意図が見え隠れ。
西洋のバロック建築を連想させる、複雑な構成美に感動。

(田川尚吾)



Photo 04

「悠久の空－二月堂」

(大西正行)



Photo 05

唐招提寺の境内に視られる高床式の校倉造りは国宝の経蔵と、宝蔵で唐招提寺が創建されるより前にあった、日本最古の高床式校倉造りです。

(小倉喜八郎)



Photo 06

長い参道から正面にどんと構え、初めて高校の修学旅行で、屋根の美しさに魅了された唐招提寺の薨、奈良らしい美しい佇まいです。

(荒川正登)



Photo 07

新薬師寺の十二神将を見たいと思っておりました。バス停からお寺に向かう途中の素敵な坂道です。

地元の方のお話では、春日大社の宮司の方々が住んでいた処との事です。通りに面した入口に季節の花が生けてあるお宅が数軒あり、得したような、ありがたい気持ちになりました。

見たいと思っていた色々な古仏に出会えて良い旅でした。

(菊地紀代子)



Photo 08

2月18日(金)最初の研修見学地今井町の入口に仁王様のように踏ん張っていた“えのき(榎木)”

(廿日出 頼秀)



Photo 09

「東大寺大仏像」

(鈴木 興)



Photo 10

新薬師寺をめざしてきよろきよろしながら歩いている時、地元の叔父さんから勧められて訪ねた小さな寺、「不空院」です。

ご本尊は鎌倉時代のもの、御住職から説明も受けましたがなかなか由緒ある寺の様子。本堂脇のお社があり、鳥居の両脇には何ともかわいらしい狛犬ならぬ狸さんがいました。えんきりさんとえんむすびさんが祀られているそう。

正反対の願いことではないかとの質問に、縁を切らねば新しい縁にはめぐり合わないから、どちらも同じこととの答えに納得して手を合わせてきました。

(今井 淳子)



Photo 11

「新薬師寺」

(池谷 透)



Photo 12

大雨の中、どうなることやら？の出発となりましたが、初めて乗る新幹線で一気にテンションが上がって、到着した時には既に充実感と満足感が支配していました。

日本の総ての始まりの都と云われている町並み、寺社。雰囲気はその時の重さ、時間経過の落差を身近に感じて神妙に拝見しました。奈良建築士会有志のご案内により、隈なく、時間もたっぷりで見学する事が出来まして感謝しております。その後の懇親会もフレンドリーに進みまして大変愉しみました。

二日目のバスでの見学は、これでもかの？欲張り寺社拝見。三日目は竹内様、落合様、二十日出様と一緒に京都へ。皆様夫々に建築や歴史に人物に特に詳しく、楽しい観光と成りました。印象に残ったのは、やはり三十三間堂や清水寺は賑やかで楽しい思い出と成りました。

皆様に親しく接して戴きまして感謝しております。有り難うございました。又この様な機会が有りましたら是非ご一緒させて頂きたいと思っております。

(塩原清晃)



Photo 13

「唐招提寺」
この大屋根を維持するため、小屋組には現代構造技術が詰まっております。カラーベストに葺き替えれば簡単なのに、などと不届きな考えが閃きましたが住宅の耐震改修設計と混同してはいけませんね。

(落合 博)



Photo 14

今井町内町の復元された環濠越に見た今西家の西側外観です。

奈良県建築士会の方々の案内で大変有意義な時を過ごしました。
伝統的建造物を活かし、未来に繋げることの大変さと大切さを感じました。
奈良の旅、ありがとうございました。

(河野 洋)



Photo 15

古民家の再生と耐震改修の参考になりました。

(竹内俊雄)



Photo 16

「梅の香に 時がゆるりと 法隆寺」

ひろし

(小倉 宏)



Photo 17

昔と変わらぬ街並みは、今も子供たちを見守っている。(今井町・重要伝統的建造物群保存地区内にて)

(高橋秀行)



「絵画同好会」だより

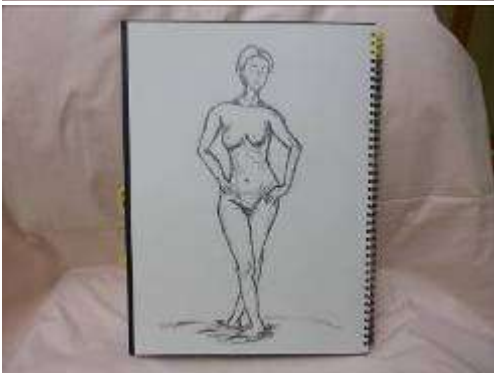
～2010年12月26日（日） かながわ労働プラザにて裸婦デッサン会を開催～

デッサンは1ポーズ 約10分～30分で6～7ポーズ、計2時間ほど行います。

始めた頃は、中々描ききれませんでしたでしたが、今は、デッサン力もつき、良い作品が出来上がるようになりました。



美人のモデルを囲んで



- ① 鈴木 洋子 会員の作品
- ② 藤井 利時 会員の作品
- ③ 高杉 幹英 会員の作品
- ④ 高橋 伸廣 会員の作品
- ⑤ 菊池 紀代子 会員の作品

①	②
③	④
⑤	



テニス同好会だより



・平成22年12月11(土)

練習 PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターAコート 参加6名

強風の中でのテニスで大変でしたが、久しぶりのNさんの参加で、楽しい定例会でした。



・平成22年12月18日(土)

懇親会

関内中華店

参加 14名

毎年行われてきました逗子マリーナの合宿は昨年で終了のため、一年を振り返る目的で、忘年会を開催することになりました。多くの会員に集まっていただき、今年の反省と今後のテニス同好会の話や、近況について語り明かしました。



・平成23年1月15日(土)

練習 PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターAコート

参加7名

新年初のテニス1面でしたが、Nさんも本調子!で一安心。明るくい年明けのスタートとなりました。



新年会 PM7:30~

新杉田にて、

参加12名

年初めは、練習に参加しなかったメンバーも出席して、今年の抱負と5月の合宿に向けての打ち合わせをしました。

交流を主体としている我が同好会は、テニスを通じて仲間同士の交流も大切にしています。

同好会会員募集中!

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎!お気軽に連絡下さい。

ご連絡の際はメールの場合でもお名前、連絡先の記入をお願いします。

定期練習日は会場が抽選のためその都度変わる可能性があります。

連絡先: 玉野 045-894-8452 FAX893-6614

近代建築世界一周 (No. 4) —フランスの旅—

【はじめに】

北米からスタートした私の「近代建築世界一周」の旅は中南米を経てヨーロッパに入ります。今回はフランスということで、近代建築を語る上で欠かすことの出来ないル・コルビュジェの作品を中心に取り上げるようになりました。

【旅の行程】

フランスは5月と9月の2回に分けて訪れています。前半はパリを中心に列車でその近郊都市を廻り、後半はレンタカーでフランス国境付近を1周するように廻り、トータルで1ヶ月ほどを費やしています。近代以前のアールヌーヴォー、ゴシックなどの西洋建築を見る場合はさらに時間が必要となります。

【参考図書】

コルビュジェ作品のガイドは無数にありますが、簡略地図入りでインドを含む世界各国の作品を掲載している Princeton Architectural Press の『The Le Corbusier Guide』が便利です。その他の近代建築をくまなく廻るには『ヨーロッパ建築案内1』(淵上 正幸 著)がお勧めです。近代以前の西洋建築を中心に廻りたい人は『ヨーロッパ建築600選』が便利でしょう。

【ル・コルビュジェ以外の作品について】

フランスには有名なルーヴル美術館を始め、駅舎を改修したオルセー美術館(写真①)や、内観の面白いピカソ美術館(写真②)、ポンピドーセンター前に控えめに建てられたブランクーシ美術館(写真③)など数多くの美しい美術館があります。

特にオルセー美術館の内部空間は、当時の駅舎の巨大なヴォールト屋根をそのまま活かして、館内にやわらかく心地よい光を満たしています。巨大な時計に隣接したカフェはまるで駅舎で列車を待つ待合室のような雰囲気です。

そして建築家アンリ・シリアニはル・コルビュジェの継承者で、洗練された現代版モダニストと言えます。特にペロンヌにある第一次世界大戦歴史博物館(写真④)は池に浮かぶサヴォワ邸(写真⑦)のようなイメージです。また、アルルにある考古学博物館の内観における展示レイアウトや詳細にはイタリアのカルロ・スカルパを彷彿とさせる美しさがあります。

【フランス建築のベスト5】

このようにフランスには多くの美しい近代建築が存在しますが、それでもベスト5をあげるとなれば、コルビュジェ作品が多く入ってくることになりました。しかもフランスには30を超えるコルビュジェ作品があり、そのなかから選択された4作品は、まさにコルビュジェの代表作とも言える作品で、著名なものばかりとなりました。



①オルセー美術館(パリ)



②ピカソ美術館(パリ)



③ブランクーシ美術館(パリ)



④第一次世界大戦歴史博物館(ペロンヌ)



⑤アルル考古学博物館(アルル)

1. ラ・トゥーレット修道院 (ル・コルビュジェ) 1960年 (写真⑥)

丘の上の静かな立地や夕日、ドラマティックなアプローチ、幾何学の組み合わせた形状、チャペルのトップライトなど、どれもすばらしく美しいものばかりですが、特にチャペルへ向かう回廊はリズムカルな窓割から入る光が美しく、静寂で神聖な空間を構成しています。宿泊することで、信者と時間を共にし、より空間のすばらしさ、時間の流れを実感することができます。

2. サヴォワ邸 (ル・コルビュジェ) 1931年 (写真⑦)

コルビュジェの提唱した近代建築5原則(ピロティ、屋上庭園、連続横長窓、自由なファサード、自由な平面)が明快に表現されたモダニズム・デザインにおける最高峰と言えます。また、住宅としても回遊性があり、明るく快適な空間で、その美しさは現在でも衰えることなく新しく、輝き続けています。

3. ロンシャンの教会 (ル・コルビュジェ) 1955年 (写真⑧)

この不思議な有機的な形状の教会は、のどかな深緑の森に包まれた小高い丘の上に建っています。内部では暗闇のなかで、壁に穿たれたさまざまな大きさの開口部から不思議な光が差しこみ、壁一面に宝石をちりばめたような輝きをはなち、まるで宝石箱の中にいるような印象を受けます。

4. ル・ヴォルカン (オスカー・ニーマイヤー) 1983年 (写真⑨)

建物が整然と並ぶ近代都市の中に突然ヴォイドが現れます。そこに頭を覗かせているのは噴火口を持つ火山のような形のこの文化センターです。何気ない都市の隙間に刺激的でアーティスティックな風景をつくり上げています。建物内部でも傾いた外壁の形状が活かされた特別な空間が展開されており、ニーマイヤー独特の艶やかな曲線が、このフランスでもみる事が出来ます。

5. ユニテ・ダビタシオン (ル・コルビュジェ) 1952年 (写真⑩)

ル・コルビュジェが提唱した、住棟の中に住居、ホテル、商店、幼稚園、庭園、食堂などの都市機能を備えた集合住宅です。写真は屋上にある幼稚園の部分です。コルビュジェはこうしたユニテを5つ完成させていますが、このマルセイユのユニテが最初のもので、宿泊可能ですので詳細までを見学できます。現在でも屋上の幼稚園や道場(柔道)も元気な子供達で賑わっていました。



⑥ラ・トゥーレット修道院 (リヨン郊外)



⑦サヴォワ邸 (ボワシー)



⑧ロンシャンの教会(ベルフォール近郊)



⑨ル・ヴォルカン (ル・アーヴル)



⑩ユニテ・ダビタシオン (マルセイユ)

パリでは上記のような作品群に加えて、現代の建築として、マルヌ・ラ・ヴァレの開発地域、シトロエン公園周辺やベルシー地区における現代の集合住宅群は、ル・コルビュジェの作品を継承し発展させた美しいプロポーションの作品が多く、奇をてらうような他の現代の建築とは一線を画しており、パリの洗練されたデザインを感じることができます。

参考文献『近代建築世界一周』ADP 出版 桜本将樹

建築士会会員 桜本将樹

平成 22 年度のスクランブル調査隊の活動

スクランブル調査隊 隊長 森山恒夫

これまでのスクランブル調査隊の活動は、各地で活動する団体や建物を残したいという個人の応援団として、影から支える立場をとってきました。しかし、数多くの建物が喘いでいる様子に危惧し、同じような活動をしようとしている人たちと連携し、人材育成にも取り組むことにしました。

阪神大震災がきっかけで立ち上がった兵庫県建築士会主催「ヘリテージマネージャー」（以下 HM という）は画期的な発案と HM による活動をしていることを知りました。歴史的建造物を後世に伝えたいと願う有志が、平成 20 年春に兵庫へ出向き HM のことを学習してきました。その内容は、歴史的な建物について文化財の知識・歴史・工法・調査技法等総合的な技能を取得し、所有者へのアドバイスや登録有形文化財への登録ができる人材を育てる講座を行なっていることでした。

その年度末から、神奈川県が主体となって「歴史的建造物保全活用推進員養成講座」（以下 HM 講座という）がスタートします。講座内容は全 60 時間の学習に自身で補足する学習を加えるもので、終了までは 4~5 カ月を必要とし、全てを受講した人だけが修了者となります。講座内容はスクランブル調査隊が活動してきたそのものであり、経験豊富な隊員は講師としても名を連ねました。受講者は公募ですがその大半が士会会員です。昨年、HM 講座修了者には、さらにレベルアップを目指した「アドバンスコース」を実践しました。多くの HM 講座修了者が県内各地に育ちつつあります。地元での活動が期待されています。

昨年、鎌倉で関わった建物「田丸家住宅」は登録有形文化財として登録することができました。明治期の化学者が建てた洋館で、現在もその御子息が建物を守っています。文化財として希望されていたのでお手伝いをしました。

文化庁からの助成を受けて、地域の伝統的文化の理解・普及・発展を目指した歴史的建造物の保全・活用策提案事業をおこないました。「横須賀市浦賀」「秦野市蓑毛地区」の活性化を狙った事業で、浦賀はスクランブルの隊員、秦野は中支部のみなさまに活動を支援して頂きました。

浦賀ではまちの悉皆調査をおこない、その中で房州石に注目しました。東京湾を挟んで対岸にある金谷は、房州石の産地である「鋸山」が有名です。船運搬で行きかっただと思われ、浦賀には沢山の房州石が使われています。また、建物には彫刻・鏝絵など貴重な文化的遺産が多くみられ、継続して調査研究をすることにしています。

大山への登山口である蓑毛は、1200 年以上前からの歴史を伝える地域です。大日堂の 4 棟の建物内には重要な仏像群があり、後世へ伝えなければいけない文化財が残っています。中支部のみなさんは、この重要な歴史的遺産を大切にしています。建物の実測調査をおこない図面化し、立派な報告書を完成させました。また、2 月 26 日には「閻魔大王フォーラム」をおこない、内外にその存在をアピールしました。今後は、大日堂特別公開・芍薬の里作り・境内にある金剛水の整備等をおこない、座禅会・コンサートなど企画しています。是非、蓑毛に足をお運びくださるようお願いいたします。

建築士会会員は全てスクランブル調査隊の隊員です。共に活動しましょう。



←
HM 講座
受 講 風
景

→
ア ド バ
ン ス コ
ー ス



←
浦 賀 渡
し 船

→
浦 賀 ド
ック



文化庁地域伝統文化総合活性化事業

『文化遺産から発信する
秦野のまちづくり』

平成 23 年 2 月 26 日 (土)

フォーラム開催 18:10~21:00
(受付 17:40~)

会場：秦野市文化会館 小ホール
入場無料

○基調講演
講 師：溝口 久 氏
田市観光光協会事務所初代事務局長、 敬徳博士
寸又峡まちづくり会議相談役、 浜名湖えんため顧問
テーマ：『人権人のまちづくり』

○映像で語る秦野地区の歴史
松本 亮三 東海大学教授

○パネルディスカッション
コーディネーター：加藤仁彦氏 / 秦野のけ文化の会会幹
パネリスト：松本亮三氏 / 東海大学経営学部長
菅原純子 / 秦野の郷土館館長の会会長
森山恒人氏 / 信濃新聞社社会部編集長兼デスク / 信濃新聞天
佐藤進也氏 / (社) 秦野青年会議所理事長
(順不同)

主催：(社) 神奈川県建築士会 中文部
後援：秦野市 / (株) 秦野市観光協会 / 秦野市観光協会 / (社) 秦野市工務協
会 / 秦野市生活文化推進委員会 / 秦野市観光協会 / 秦野市の文化の会
東海大学観光学部 / (社) 神奈川建築士事務所協会 / フロク
野丸山荘 / (株) タウンニュース社 (順不同)

←
秦 野 「閻
魔 大 王
フ ォ ー
ラ ム」 チ
ラ シ

→
秦 野 「大
日 堂 山
門」



田丸家外観

「被災住宅相談キャラバン隊登録者募集」のお知らせ

神奈川県建築士会では、先の中越地震・中越沖地震に関東ブロック協議会よりの要請を受け、キャラバン隊を派遣しました。

その後キャラバン隊員の急遽募集の連絡方法を模索してきましたが、横浜支部では建築士会支部会員の皆様すべてにお知らせをするというのは無理がありますので、横浜支部としましては、「被災住宅相談キャラバン隊登録者」を募集して、名簿を備えておくということになりました。この名簿はお知らせのためであり、登録しても、必ず現地へ行くことではありません。

今回の東日本大地震においてもいずれ要請が来るものと思われまます。

つきましては、「被災住宅相談キャラバン隊登録」に御応募下さるようお願いいたします。

なお、すでに「被災住宅相談キャラバン隊」のメーリングリストに入っておられる方はそのまま継続となります。

ご応募の方は建築士会事務局までご連絡ください。

建築士会事務局 (TEL : 045-201-1284 FAX : 045-201-0784)

防災特別委員会 横浜支部 大西正行まで

編集後記

未曾有の東北地方太平洋沖地震で、多くの尊い命が奪われてしまいました。被災地の映像から、ここに町や村があったのかと疑うような瓦礫の山。痛ましい光景に目を背けることもありました。被災地にお知り合い等が、いらした方も多かったのではないのでしょうか。

被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

震災後、TV で何万回となく流れた「こだまでしょうか」大正末期から昭和初期の童謡詩人、金子みすずの作品です。小さな我が子を残し、26 歳という短い生涯に凝縮された500 以上の作品。この詩について、童謡作家の矢崎節夫さんが解説されています。

{こだまとは、“丸ごと受け入れる” こと。かつて、私達のまわりにいてくれた、すてきな大人たちは、こだましてくれる人達でした。ころんで「痛い」といった時、両親は「痛いね」と、私の痛さを丸ごと受け入れてくれて、返してくれました。こだまは、「ヤッホー」といったら「ヤッホー」と半分の大きさになって返ってくるわけですから、「痛いね」と返してくれた時、私の痛さは半分になることができましたのです。(中略)

21 世紀は、みすずさんのまなざしの世紀です。人と人が、人と自然が、自然と地球が、こだまし合う世紀です。小さい人だけでなく、歳を重ねた人たちにも、こだまし合える自分でありたいと思います。} 記念館：山口県長門市。金子みすずに会いに行ってみよう！！

編集 広報委員会

編集スタッフ (あいうえお順)

雨森隆子・大西正行・大北晋一郎・大貫 浩・桶師徳行・田川尚吾・玉野直美・丸山幸一